

氏名	能登原 憲 司
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博 甲 第 860 号
学位授与の日付	平成2年 3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(→専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Glial Fibrillary Acidic Protein Immunoreactivity of Chondrocytes in Immature and Mature Teratomas (未熟型及び成熟型奇形腫における軟骨細胞の glial fibrillary acidic protein 免疫反応性)
論文審査委員	教授 赤木忠厚 教授 井上 一 教授 難波正義

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

奇形腫軟骨細胞の glial fibrillary acidic protein (GFAP), 他の中間径フィラメント蛋白, S-100 蛋白に対する免疫反応性を検討した。未熟型奇形腫 5 例, 成熟型奇形腫 12 例, 奇形癌 1 例に含まれる 95 個の軟骨について, ホルマリン固定パラフィン包埋切片を用い, ABC 法にて免疫組織化学染色を行った。奇形腫軟骨細胞は GFAP, ビメンチン, S-100 蛋白に陽性を示した。GFAP 陽性軟骨細胞は未熟軟骨において豊富であり, 軟骨の成熟とともに減少し, かつ主に軟骨辺縁に分布した。成熟弾性軟骨では硝子軟骨よりも GFAP 陽性細胞が多かった。GFAP 陽性軟骨細胞は同時にビメンチン陽性と考えられた。GFAP 陽性軟骨はしばしば中枢神経組織に接して存在していた。この結果は気道軟骨の免疫染色性と類似するもので, 奇形腫軟骨の少なくとも一部は気道軟骨と同じ分化を示していると考えられた。さらに奇形腫が分化抗原の検索の上で有用な材料となりうることが示唆された。

なお, 本論文は共著論文であり, 共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は奇形腫軟骨細胞の glial fibrillary acidic protein 反応性を免疫組織学的に検索し, 奇形腫軟骨の分化について新知見を得, さらに奇形腫が分化抗原の検索の上で有用な材料となりうることを示したもので価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。